ごあいさつ

「リサーチマインドを持った総合診療医の養成」合同公開フォーラムの開催に寄せて

未来医療研究人材養成拠点形成事業　事業推進代表者
大阪大学総長　平野　俊夫

未来医療研究人材養成拠点形成事業は、急速に進展する高齢化等に伴う医療課題の解決に貢献し、国内外の医学・医療の発展を強力に推進するために全国公募された事業で、大阪大学では、【テーマA】メディカル・イノベーション推進人材の養成、【テーマB】リサーチマインドを持った総合診療医の養成に採択され、双方ともに大学を挙げて事業を展開しているところです。このたび、【テーマB】に関する合同公開フォーラムを大阪大学が主催させていただきました。全国の拠点校ならびに総合診療医養成に携わる施設から230名の方々にお集まりいただき、盛会に開催できましたことを、まずは関係の皆様方に感謝申し上げますとともに、事業に対する多大な支援をいただいている文部科学省にも併せて感謝申し上げます。

さて、大阪大学はその源流である「適塾」の設立者、緒方洪庵の「人のため、世のため、道のため」という精神と大阪府民の学問への思いを受け継ぎ、「地域に生き　世界に伸びる」をモットーとしております。この度の総合診療医養成に関する事業は、「国民が将来にわたって安心して医療を受けられる環境を構築するため、地域の医療機関や市町村等と連携しながら、将来の超高齢社会における地域包括ケアシステムに対応できるリサーチマインドを持った優れた総合診療医等を養成する」ことを目的としており、まさに緒方洪庵の精神と大阪大学のモットーに通じるものです。また、超高齢社会の到来は日本だけの問題ではないことから、現在大阪大学が推進している「世界適塾」構想にも通じています。この大阪の地で、合同フォーラムを開催できましたことは、大変感慨深い思いであります。日本の近未来、世界の超高齢化の到来に向けて、拠点形成事業に参加されておられます皆様には今後の更なるご活躍に大いに期待しております。

2015年2月

平野俊夫

ごあいさつ

合同公開フォーラムの盛会に対する感謝と御礼

大阪大学大学院医学系研究科
研究科長　金田　安史

去る平成27年1月30日に、文部科学省事業である未来医療研究人材養成拠点形成事業の「リサーチマインドを持った総合診療医の養成事業」第2回合同フォーラムを大阪大学が主催させていただきました。大変多くの皆様に御来場、御参加いただきありがとうございました。特に、文部科学省高等教育局医学教育課　課長　寺門成真様にもお越し頂き感謝申し上げます。お蔭をもちまして、事業に採択された15拠点をはじめ全国約50大学からお集まり頂き、総勢230名の方に御参加頂くことができました。

さて、文部科学省のホームページには、本事業は、「国民が将来にわたって安心して医療を受けられる環境を構築するため、地域の医療機関や市町村等と連携しながら、将来の超高齢社会における地域包括ケアシステムに対応できるリサーチマインドを持った優れた総合診療医等を養成することを目的とします。」とあります。「超高齢社会」、「リサーチマインド」、「総合診療」がキーワードですが、選定された15拠点がそれぞれに地域の現状を踏まえて事業を展開されている様子が伺えるフォーラムで、大変熱心にご討議いただきました。大阪大学も本事業の推進のために、卒前・卒後教育体制の一本化や、総合診療部門の再編など事業運営体制を整え、行政、医師会、住民組織とも連携して事業を進めております。また、総合大学としての特色を出して、歯学部、工学部、人間科学部とも連携して本事業の将来展開を検討しているところです。

合同フォーラム当日のテーマは、「今後の日本に求められる総合医養成の課題と展開」となっておりましたが、事業開始後1年半での課題や展開の予定だけではなく、合計5年の事業が終了した後の「事業の継続性」まで視野に入れた討議となりました。さらに、最後のシンポジウムでは、「今後の日本に求められる総合医および、本事業の継続性」をテーマに、4名の先生方からご発表いただきました。いずれの演者の方々も本事業の目的とするところで実際にご活動されており、大所高所から本事業の将来像をお話頂きました。

本抄録集が、合同公開フォーラム当日の熱気を伝えると共に、更なる事業の活性化、今後の我が国の高齢者医療問題の解決に向けた全国からの動きに通じることを祈念しております。

２０１５年2月

ごあいさつ

フォーラムを機にした今後の事業発展を願って

大阪大学医学部附属病院
病院長　金倉　譲

文部科学省事業である未来医療研究人材養成拠点形成事業「リサーチマインドを持った総合診療医の養成事業」の拠点校のひとつとして大阪大学が選定され2年目になります。来年度は中間評価の年ですが、それを前に第2回合同フォーラムを大阪大学が担当させていただき関係者の皆様方に感謝申し上げます。また、文部科学省からも文部科学省高等教育局医学教育課の寺門成真課長にお越し頂き、事業全体の中間評価的なお話も含めてご示唆に富むご講演をいただきました。重ねて感謝申し上げます。今回は、全国から多数の皆様をお迎えしてのフォーラムで大変充実したものであったと伺い喜んでおります。

さて、大阪大学におきましても、関係多数の診療科の協力を仰ぎながら事業推進責任者らを中心に事業展開を進めていますが、病院長としましても総合診療部の機能をさらに高めること、卒後教育の体制を強化することを意識して進めております。阪大病院の理念である「良質な医療を提供すると共に、医療人の育成と医療の発展に貢献する」は、江戸時代に大坂の町に適塾を開設した緒方洪庵の思想を受け継いだものですが、まさに現在の大学病院の使命である「診療、教育、研究」の発展と一致するものです。本事業は、私が目指します患者さんに信頼される「優（やさ）しい医療、適（かな）える医療」にも通じるものがあり、全国における事業全体の発展を願ってやみません。

今回のフォーラムを機に、お互いに情報交換の機会を増やし、共同して事業全体の発展につなげられますますことを祈念しております。

２０１５年2月

ごあいさつ

全国の施設が総合診療医養成について協力していくきっかけに

未来医療研究人材養成拠点形成事業　事業推進責任者
大阪大学大学院医学系研究科　老年・総合内科学　教授
樂木　宏実

未来医療研究人材養成拠点形成事業「リサーチマインドを持った総合診療医の養成」の第2回合同フォーラムには全国から多数の皆様に御参加いただき盛会となりましたこと主催大学の事業推進責任者として厚く御礼申し上げます。

平成25年度に拠点校として採択されて以降、大阪大学としても総合診療医養成事業の発展に尽力して参りましたが、フォーラム会場で各拠点校からの活動報告を拝聴させて頂き、沢山の刺激を受けました。しかしながら刺激を受けるだけでは不十分であり、また事業最終年度の5年目にその継続性を考えたのでは遅いという事は多くの事業責任者の方々が共感されているところと思います。

そのためには主催する2年目の合同フォーラムにおいて各拠点が事業の継続性について考え、3年目である平成27年度には事業終了後の方向性を明確にするのはもちろんの事、15拠点全体としても共通の認識を持ち、今後の高齢者医療・地域包括ケアシステムで中心的役割を果たす総合診療医の養成にむけて、各事業を発展・継続すべく連携していく事が重要であると考えました。

上記のような考えのもと今回のフォーラムでは“事業の継続性”をテーマに各拠点校の先生方に盛り沢山の資料を御提出いただきました。この場を借りて改めて感謝申し上げるとともに無理をお願いしましたことお詫び申し上げます。本抄録集は、各拠点事業の取り組みだけでなく将来の継続性にも言及した多くの資料を、当日フォーラムに御参加頂いた皆様だけでなく、残念ながら御参加頂けなかった皆様にもご覧頂き、各拠点の取り組み内容を知って頂くと共に、総合診療医の養成について全国の各施設が協力していくきっかけになればという思いから作成いたしました。

本フォーラムを契機として、各拠点が来年度以降の方向性をイメージし各地域において成果を出すとともに、15拠点が連携し情報や教育システムを収集・共有できるような新たな枠組みが形成され、文部科学省事業としての成果を全国に発信できる日が来ることを祈念しております。

最後に、当日御参加いただきました文部科学省の皆様、各拠点校の皆様、そして総合診療医の養成に関わる全ての皆様に感謝申し上げます。

2015年2月